

県央史談会 令和5年3月12日史跡めぐり資料

1. 荻野神社役行者像

修験道の開祖と仰がれた役行者は、7～8世紀に大和(奈良県)の葛城山で修業した呪術者役小角(えんのおづめ)であり、一時期、妖言を吐いたの理由で伊豆に流されたと伝えられる。

荻野神社の旧称は石神社。石神社の別当寺であった灌頂院は『風土記稿』に「清恵山遍照寺 古義真言宗」とある。このことから修験道との関係が推察される。

山林に修行し、密教的な儀礼を行い、靈験を感得しようとする修験道は、近隣の八菅や大山・日向で栄え、経ヶ岳などの荻野西山がその共有の聖地であった。 厚木の歴史探訪8『石の神仏』

2. 六郎屋標柱

この辺りに、平安時代後期の武将八幡太郎義家の6男の陸奥六郎源義隆の館があったと言われている。

義隆は『平治物語』に「陸奥六郎義隆は、相模の毛利を知行せられれば、毛利の冠者とも申しけり」とある。平治の乱の際に討ち死にする。頼朝の父・義朝の叔父にあたる。

父の義家は前九年の役の武功により出羽守に任じられ、永保3年(1083)陸奥守兼鎮守府將軍となり、後三年の役を鎮定したが、朝廷はこれを私闘として功賞を行わなかったので私財をもって将士をねぎらって東国に源氏の基礎を築いた。このことが、頼朝が鎌倉に幕府を開いたことに繋がる。

また、荻野四郎忠義は頼朝の父親・義朝の配下として京に登り、保元の乱に参加した。

『黄色いチラシ』平成27年6月号「荻野四郎忠義と陸奥六郎義隆」

3. 横林の石造物

〔ロータリー南〕 百番観世音：明治27年 (百観音：西国33・坂東33・秩父34の観音霊場)

〔T字路〕 庚申塔：「従是右大山」を刻む 六角柱：不明、正徳2年(1712)の観音塔：「津久井道 松石寺道 大山道」を刻む 文久3年(1815)の六角柱観音塔

4. 深堀の石造物

ツゲ古木前：庚申塔 享保7年(1722)と宝暦4年(1754)の2基 双体の道祖神

厚木市文化財調査報告書第13集『野だちの石造物』

5. 滝谷の滝

八菅修験行所第10番寺宿の滝洞寺はこの辺りにあったのではないかと。

『黄色いチラシ』平成3年10月号「修験入峰コースを歩こう」「峯中駈路勤行 参拾番行所次第」

『黄色いチラシ』令和4年2月号「八菅修験行所第10番寺宿か」

6. ミツマタ桃源郷

『黄色いチラシ』令和4年5月号「ミツマタ桃源郷の10年間」